大阪市街地巡検

中　出　フヂ子

11月５日，定刻にＪＲ大阪駅集合。今回の巡検は大阪の市街地の特色―キタとミナミという二大繁華街を比較，考察することがテーマである。修学旅行で関西方面に行く機会はあっても京都や奈良が中心であり大阪市内めぐりは少ないと思う。

大阪は明治初期までは大坂と書き，豊臣秀吉の天下統一による大坂城築城以前から経済活動は活発であったが，秀吉によって確固とした基盤が築かれた。江戸期は天下の台所として日本経済の中心的役割を担い，明治期は紡績工業が発達して東洋のマンチェスターと呼ばれる工業都市になり煙の都と称された。しかし次第に大阪の経済は地位が低下し，工業，商業，特に問屋の機能も東京に集中するようになり地盤沈下は加速化する。しかし東京オリンピックと並ぶ国際的大事業，昭和45年の万博を契機に東京一極集中から再び西日本の中心都市としての役割を強化，復権する機運が高まってくる。大阪は古代王朝の都の所在地にもなり，古墳史跡も多く，歴史的に古くから開けた土地だが，郊外は別として市内には緑が少なく水も不味い。このような大阪の市街地は他の都市と比べて，どのような特徴がみられるのか。

まずＪＲ大阪駅をはさんで二大私鉄のターミナル梅田駅周辺。キタと呼ばれる繁華街の中心であり高層ビルが林立。地下には巨大な地下街が広がっている。明治以後開けた新興地域が今では乗降客が大阪最大という賑わいを見せている。ビル街の一画にあるお初天神にお参りする。次は中之島へ。淀川は市内に入ると二つの川に分岐するが，その川中島で東半分は公園，西半分は重厚な市役所，日銀大阪支店が建っている。昔の栄華を思わせる由緒ある建物である。橋を渡ると船場。江戸期よりビジネスの中心地で狭い道路は人と車で混雑している。緒方洪庵の適塾が保存されており幕末，明治の動乱を駆け抜けた福沢諭吉，大村益次郎らの苦労が忍ばれる。ビルの谷間の少彦名神社は神農さんとも呼ばれ薬問屋街のシンボル。船場センタービルは高速道路の高架下を利用したビルで衣料・雑貨の卸小売店が多数入居している。丼池は繊維関係の問屋街で松屋町は紙，文具，玩具の問屋街。キタとミナミをつなぐ御堂筋は市内幹線道路でプラタナスと銀杏の並木は歩道とグリーンベルトを合わせて４列になる。

ミナミは難波駅をターミナルとして古くからの繁華街で庶民的，大阪らしい情緒がある。梅田と同様に巨大な地下街があり，地図には載らないが大阪の狭い土地を有効に活用したものとして注目に値する。道頓堀界隈は芝居，映画，飲食関係の店が軒を連ねる。脇道に入ると法善寺横丁で人がやっと一人通れる位の路地のつきあたりに水かけ不動があり，お参りする人達の線香の煙が絶えない。織田作之助の「夫婦善哉」でも有名。近くには黒門市場があり，ミナミの台所として200軒ほどの店が庶民から料理屋まで相手に商売する。新鮮なのは当然だが，マグロ，エビ，フグなど単品の専門店化している。その他，金物専門店街，電気専門店街，家具，道具専門店街など卸小売店街が集まっており，買物にとても便利である。最後に向かったのは鶴橋，国際マーケット。大阪市民の台所として電車でわざわざ買いに来る人がいるほど評判である。11月ということもあり日もだいぶ傾いて，すっかり暗くなってしまい，買物客の姿もなく店仕舞をしている所もあったが，活気の名残は漂っており，上野のアメ横を思い起こした。

何度か建て替えた巨大な大阪城は大阪のシンボルであり400年以上も大阪の盛衰と共にあり，拠だったという。政治と経済そして文化すらも中央集中傾向の中で，関西国際空港の建設，京阪奈丘陵の学術文化研究都市づくりの果たす役割は大きいだろう。古い町，大阪。過去の栄光ゆえに伝統に縛られ，新しい波に乗り遅れたが，先進地域として重要な役割を果たしてきたわけで日本の経済格差是正，地方の時代確立の上で新しい１つのモデル都市となりつつあると思う。

（11月５日　熊谷教官指導）